

Japanese Utility Model Publication No. 55-2135

Publication Date: January 21, 1980

Japanese Utility Model Application No. 50-174290

Application Date: December 25, 1975

Applicant: Nepon Inc.

Title of the Utility Model: SMALL AMOUNT FLUSH TOILET

Abstract of Disclosure:

A small amount flush toilet is disclosed. The toilet is provided with a bowl (2), and a water passage (3) which expands approximately horizontally along an entire periphery of the bowl (2) at the upper end of the bowl and has an outer side peripheral surface having a vertical rising part (3a). The toilet is further provided with a cleansing water receiving inlet (4) being provided at a proper location in the water passage (3). The cleansing water is flown into the water passage (3) from an approximately tangential direction, wherein a width (a) of the water passage (3) is arranged to be narrower gradually away from the cleansing water receiving inlet (4).

⑪実用新案公報(Y2)

昭55-2135

⑤Int. Cl.³

E 03 D 11 / 08

識別記号

厅内整理番号

7611-2D

⑪④公告 昭和55年(1980)1月21日

(全2頁)

1

2

④少量水洗便器

②実願 昭50-174290
 ②出願 昭50(1975)12月25日
 公開 昭52-87142
 ③昭52(1977)6月29日
 ②考案者 遠田英捷
 川崎市高津区宮崎1の9の44宮
 崎台フエニックス607
 ②考案者 石崎信比古
 厚木市飯山3058の2ネポン厚
 木寮
 ②出願人 ネポン株式会社
 東京都渋谷区渋谷1の4の2

⑤実用新案登録請求の範囲

便皿2の上端に、その全外周に沿つて略水平に伸び、しかも外周に略垂直な立上り部3aを有する面を連設して通水路3となし、該通水路3の適宜位置に洗浄水受入口4を設け、通水路3内に略接線方向より洗浄水を流入させてなる便器であつて、通水路3の巾aを洗浄水受入口4から遠ざかるにつれて次第に狭くしたことを特徴とする少量水洗便器。

考案の詳細な説明

本考案は少量の水で便皿を洗うようにした便器に関し、限られた少量の水で便皿の全面を一様にかつ効率よく洗浄できるようにしたものである。

これを実施例である図面によつて詳述すると、便器1の便皿2の上端に、その全外周に沿つて略水平に伸び、しかも外周に略垂直な立上り部3aを有する面を一体的に連設して通水路3となし、該通水路3の後端部側に洗浄水受入口4を設けるとともに、通水路3の巾aを洗浄水受入口4から遠ざかるにつれて次第に狭くする。一方、洗浄水受入口4には、通水路3の略接線方向から洗浄水が供給される。洗浄水を通水路3内に供給する裝

置としては、従来公知のロータンク等を使用してもよいが、本実施例では本出願人が出願した洗浄水供給装置(昭和50年12月25日提出の実用新案登録出願2)を使用した。

しかし、洗浄水受入口4から通水路3内に洗浄水を供給すると、該洗浄水は通水路3のほぼ接線方向から流入するから、第1図に示す矢印5のように通水路3を一周し、しかも通水路3の巾aを洗浄水受入口4から遠ざかるにつれて、次第に狭くしてあるから、洗浄水は通水路3から序々に溢流し、矢印6のように便皿2内をラセン状に流下し、排泄口7より排出される。

本実施例では洗浄水受入口4を便皿2の後端部側に設けたが、汚物等が最も付着しやすく汚れやすい部分、即ち便皿2の後端部に比較的多量の水を流すためには、洗浄水受入口4を便器1の後端部よりもやや前面寄り側面に設け、通水路3に入つた水が便皿2の後端部にすぐ向かうようする方が良い。又、本実施例のように、便皿2の後端部に洗浄水受入口4を設ける場合は、洗浄水受入口4に近い方の通水路3の巾を比較的広くし、終端近くになるにつれその巾を急激に小さくすると便皿2の後端部に比較的多量の水を送ることができます。

しかし、本考案は構成が簡単で故障が少く、仮に通水路3が汚れたり閉塞した場合でも、通水路3の上面は開放されているから、掃除、点検が容易である。しかも洗浄水を通水路3の接線方向から流入させるから、洗浄水は前進方向の速度をもち、相当な角度で便器を下方に横切つて流れるから、即ち洗浄水の流下距離が長いから、少量の水を有効に利用でき、更に、通水路3の巾を洗浄水受入口4から遠ざかるにつれて次第に小さくしたから、便皿2の上端のほぼ全周から一様に洗浄水が流下し、その洗浄効果は特にすぐれたものである。

3

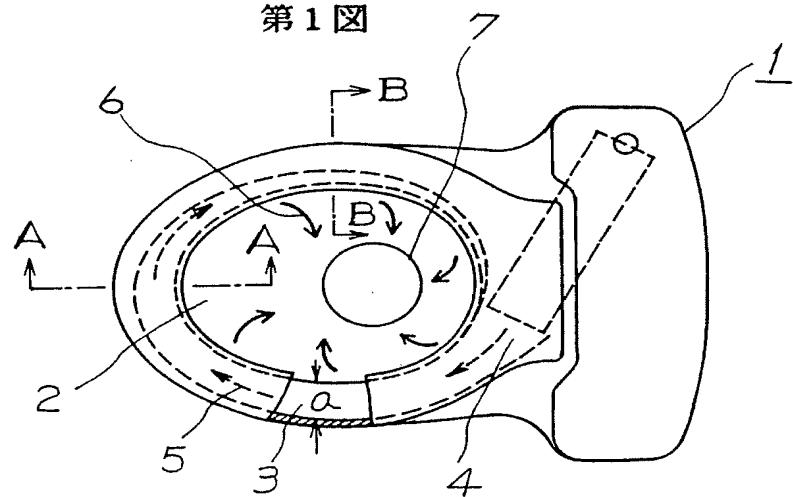
4

図面の簡単な説明

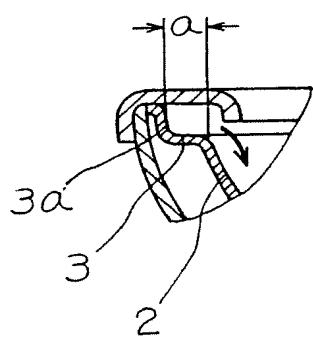
図面は本考案の実施例を示すもので、第1図は一部を切欠いた平面図、第2図は第1図のA—A

断面図、第3図は第1図のB—B断面図である。
1は便器、2は便皿、3は通水路、3aは立上り部、4は洗浄水受入口。

第1図



第2図



第3図

